

# 「教育学系」教育評価報告書

(平成13年度着手 分野別教育評価)

福岡教育大学大学院教育学研究科

平成15年3月

大学評価・学位授与機構



## 大学評価・学位授与機構が行う大学評価

### 機構の行う評価について

#### 1 評価の目的

大学評価・学位授与機構（以下「機構」）が実施する評価は、大学及び大学共同利用機関（以下「大学等」）が競争的環境の中で個性が輝く機関として一層発展するよう、大学等の教育研究活動等の状況や成果を多面的に評価することにより、その教育研究活動等の改善に役立てるとともに、評価結果を社会に公表することにより、公共的機関としての大学等の諸活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくことを目的としている。

#### 2 評価の区分

機構の実施する評価は、平成 14 年度中の着手までを試行的実施期間としており、今回報告する平成 13 年度着手分については、以下の 3 区分で、記載のテーマ及び分野で実施した。

- 全学テーマ別評価(教養教育(平成 12 年度着手継続分)、研究活動面における社会との連携及び協力)
- 分野別教育評価(法学系,教育学系,工学系)
- 分野別研究評価(法学系,教育学系,工学系)

#### 3 目的及び目標に即した評価

機構の実施する評価は、大学等の個性や特色が十二分に発揮できるよう、当該大学等が有する目的及び目標に即して行うことを基本原則としている。そのため、大学等の設置の趣旨、歴史や伝統、人的・物的条件、地理的条件、将来計画などを考慮して、明確かつ具体的に目的及び目標が整理されることを前提とした。

### 分野別教育評価「教育学系」について

#### 1 評価の対象組織及び内容

このたびの評価は、設置者（文部科学省）から要請のあった 6 大学の学部、研究科（以下「対象組織」）を対象に実施した。

評価は、対象組織の現在の教育活動等の状況について、原則として過去 5 年間の状況の分析を通じて、次の 6 項目の項目別評価により実施した。

- 1) 教育の実施体制
- 2) 教育内容面での取組
- 3) 教育方法及び成績評価面での取組
- 4) 教育の達成状況
- 5) 学習に対する支援
- 6) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

#### 2 評価のプロセス

対象組織においては、機構の示す要項に基づき自

己評価を行い、自己評価書（根拠となる資料・データを含む。）を機構に提出した。

機構においては、専門委員会の下に評価チームを編成し、自己評価書の書面調査及び対象組織への訪問調査を実施した。

なお、評価チームは、各対象組織により、教育目的及び目標に沿って評価項目の要素ごとに独自に設定された観点に基づき分析を行い、その分析結果を踏まえ、要素ごとに教育目的及び目標の実現に向けた貢献（達成又は機能）の程度を判断し、それらを総合的に判断した上で評価項目全体の水準を導き出した。

機構は、これらの調査結果を踏まえ、その結果を専門委員会で取りまとめた上、大学評価委員会で評価結果を決定した。

機構は、評価結果に対する意見の申立ての機会を設け、申立てがあった対象組織について、大学評価委員会において最終的な評価結果を確定した。

#### 3 本報告書の内容

「対象組織の現況及び特徴」、「教育目的及び目標」及び「特記事項についての所見」の「対象組織の記述」欄は、対象組織から提出された自己評価書から転載している。

「評価項目ごとの評価結果」は評価項目ごとに、貢献（達成及び機能）の状況を要素ごとに記述している。

また、当該評価項目の水準を、これらの状況から総合的に判断し、以下の 5 種類の「水準を分かりやすく示す記述」を用いて示している。

- ・ 十分貢献（達成又は機能）している。
- ・ おおむね貢献（達成又は機能）しているが、改善の余地もある。
- ・ かなり貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要がある。
- ・ ある程度貢献（達成又は機能）しているが、改善の必要が相当にある。
- ・ 貢献しておらず（達成又は整備が不十分であり）、大幅な改善の必要がある。

なお、これらの水準は、対象組織の設定した教育目的及び目標に対するものであり、相対比較することは意味を持たない。

また、評価項目全体から見て特に重要な点を、「特に優れた点及び改善点等」として記述している。

「評価結果の概要」は、評価結果を要約して示している。

「意見の申立て及びその対応」は、評価結果に対する意見の申立てがあった対象組織について、その内容を転載するとともに、それへの機構の対応を示している。

「特記事項についての所見」の「機構の所見」欄は、対象組織が記述している特記事項について、評価項目ごとの評価結果を踏まえて所見を記述している。

#### 4 本報告書の公表

本報告書は、大学等及びその設置者に提供するとともに、広く社会に公表している。

## 対象組織の現況及び特徴

対象組織から提出された自己評価書から転載

### 1. 現況

- (1) 機関名 福岡教育大学
- (2) 研究科名 教育学研究科
- (3) 所在地 福岡県宗像市赤間文教町 1 - 1
- (4) 専攻構成 (12 専攻)
- 学校教育専攻
  - 障害児教育専攻
  - 国語教育専攻
  - 社会科教育専攻
  - 数学教育専攻
  - 理科教育専攻
  - 音楽教育専攻
  - 美術教育専攻
  - 保健体育専攻
  - 技術教育専攻
  - 家政教育専攻
  - 英語教育専攻
- (5) 学生数及び教員数
- |     |      |
|-----|------|
| 学生数 | 252名 |
| 教員数 | 156名 |

研究能力を養い、初等・中等学校の教育実践の水準を向上させる高度の専門的能力を養成する。(大学院規程第1条)

#### (3) 本学の理念・目標

教育に関する教育・研究を総合的に行う九州地区の拠点大学として、学生に豊かな教養と深い専門的知識技能を獲得させることによって、知的発達と人間的成長を促し、もって有為な教育者を養成するとともに、地域及びわが国の文化の発展に寄与することを目指す。

また、東アジア諸国をはじめ、世界の教育機関との教育・学術交流を通して国際化を図る。

これらの理念は、教育面、研究面、社会貢献面において目標を定め、それぞれの目標を具体化し、実行することによって達成する。

#### (4) 本学の特徴

本学の特徴は、九州地区の拠点大学として、学校教員の養成と教育に関する研究を総合的かつ積極的に行ってきたことにある。平成11年度の大学改革は、「21世紀の教育を担うことのできる資質能力をもった教員養成を目指して、伝統的な学校教員の養成機関から真の意味での教育研究機関へ脱皮する。」という理念を実現する方向で行われた。

改組後は、次の面で研究教育に力を入れている。

1. 現職教員のリカレント教育やリフレッシュ教育に積極的に取り組む。
2. 教育実践力を高めるために現職教員や社会人の研究に積極的に取り組む。
3. 教育現場で役立てられる研究に鋭意取り組む。
4. 教育・研究面の国際化を図るために、外国人留学生を積極的に受け入れる。

さらに、福岡県内の多くの現職教員ならびに社会人等を受入れ、現職教員の再教育及び社会人等の生涯学習の場と機会の提供を鋭意行っている。

### 2. 特徴

#### (1) 沿革

本教育学研究科は、学部教育の基盤の上に、精深な学問・芸術研究の精神に支えられ、教科内容、人間の発達や人格形成を理論的に究明し、特にこれらを教育過程・実践の中に創造的・活動的に生かすことのできる高度な教職専門の学識と実践力をもった教師及び教育研究者の養成を図ることを設置目的として、昭和58年度に5専攻が設置され、その後7専攻が増設され、平成8年度に現在の12専攻として完成した。

#### (2) 大学院の目的

学部における一般的並びに専門的な教養あるいは教職経験の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、学校教育に関する学問を創出・展開する

## 教育目的及び目標

対象組織から提出された自己評価書から転載

### 1. 教育目的

本学大学院の教育理念は「学部における一般的並びに専門的な教養あるいは教職経験の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を授け、学校教育に関する学問を創出・展開する研究能力を養い、初等・中等学校の教育実践の水準を向上させる高度の専門的能力を養成することを目的とする」と大学院規程第1条に示している。

この教育理念を達成するために、本研究科の教育目的を以下のように設定する。

- (1) 学校教育、障害児教育並びに初等・中等学校の各教科等に対応した高度な専門的知識・技能及び研究能力を有し、かつ幅広い高度な教育実践力を有する人材の養成を目指す。
- (2) 学校教育3課程の具体的目標をさらに深めるとともに、現代社会が抱える諸問題に関する専門的知識とその教育実践力を高めるために、現職教員等の再教育に積極的に取り組む。
- (3) 学校教育の諸課題に関する研究をもとに、その成果を実践の場に活用できる能力を持った学校教員の養成を目指す。
- (4) 教育・研究面での活性化及び国際化を図るために、外国人留学生を積極的に受け入れる。
- (5) 関連諸機関との連携を密にした大学院教育に取り組む。

上がる授業形態、指導法に取り組む。

- 2) 学位論文審査及び最終試験システムの充実を図る。
- 3) 大学院生への研究指導、授業、大学院生の学習環境の向上のため、図書館、情報機器、院生室等の整備、活用を図る。
- (4) 教育の達成状況
  - 1) 修士論文の審査状況を把握し、高度な専門的知識・技能及び研究能力の更なる育成を図る。
  - 2) 専修免許状や諸資格の取得状況を把握し、教育実践力の更なる形成を図る。
- (5) 学習に対する支援
  - 1) 教官によるオリエンテーションを充実し、学習と研究に対する支援を強化する。
  - 2) 図書館の夜間開館や、学習環境（施設・設備）の整備を図る。
  - 3) 多様な学生（現職教員、社会人、外国人留学生）に対する学習支援の充実を図る。
- (6) 教育の質の向上及び改善のためのシステム
  - 1) 大学院生による授業評価や、教官の自己評価等を、教育方法及び教育の質の向上へ向けて活用する。

### 2. 教育目標

本研究科の教育目的を達成するため、以下のような具体的な教育目標を設定する。

- (1) 教育の実施体制
  - 1) 現職教員や社会人など多様な学生を積極的に受け入れる。
  - 2) 教育目的・目標の趣旨を広く周知させる。
- (2) 教育内容面での取組
  - 1) 学校教育、障害児教育及び初等・中等学校の各教科等に対応した高度な教育実践力を有する学校教員の養成に努める。
  - 2) きめ細かな論文作成指導に取り組む。
  - 3) ティーチング・アシスタント制度の活用を図り、大学院学生の指導力の向上に役立てる。
- (3) 教育方法及び成績評価面での取組
  - 1) カリキュラムの充実を図るとともに、学習効果が

## 評価項目ごとの評価結果

### 1. 教育の実施体制

この項目では、対象組織における「教育の実施体制」について、「教育実施組織の整備に関する取組状況」、「教育目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況」及び「学生受入方針（アドミッション・ポリシー）に関する取組状況」の要素ごとに教育目的及び目標の実現に向けた貢献の程度を判断し、それらを総合的に判断した上で項目全体の貢献の程度を評価し、水準を導き出したものを示している。また、特に重要な点を「特に優れた点及び改善点等」として示している。

#### 目的及び目標の実現への貢献度の状況

##### 【要素1】教育実施組織の整備に関する取組状況

平成 11 年度に入学定員の改定を行っており、指導体制として教員一人あたりの大学院生の数は 1.63 名と少人数となっている点は、評価できる。

大学院常任委員会、点検評価委員会等を中心として、教育課程を編成・改善するための組織体制を整備し様々な取組を行っており、評価できる。

受講者数は少数にとどまっているものの、附属学校においてサテライト教育を実施することにより、現職教員の大学院教育の推進に寄与している点は、優れている。

##### 【要素2】教育目的及び目標の趣旨の周知及び公表に関する取組状況

学内及び学外者に対する教育目的及び目標等の周知・公表に関しては、新聞・ポスター等を用いて多様な方法を取り入れており、優れている。

「福岡教育大学大学案内」、「数字でみる福岡教育大学の姿」等の刊行物による周知・公表も行っており、関係機関への学生募集要項の送付も実施しているが、ホームページ等による周知・公表についても一層の充実を図る必要がある。

##### 【要素3】学生受入方針（アドミッション・ポリシー）に関する取組状況

平成 12 年度から学生募集要項に「各専攻の紹介」を記載し、各専攻の特性を見据えた記述がなされているなど工夫が見られるが、大学院全体としての学生受入方針の記載については、改善の必要がある。

入学者選抜方法については、現職教員及び社会人のリ

カレント教育の要請に資するための入学定員の拡大、社会人特別選抜の受入枠を変更し社会人と現職教員に分けての募集を行うなどの取組が検討され、実施されている。また、一般・社会人特別・現職教員の各選抜試験を実施し、現職教員の受験科目の検討（外国語の免除、研究業績等による専門の試験の代替措置）を行ったほか、外国人留学生については入学資格の緩和（研究歴や通信教育等の経歴の考慮）を行う等、継続的な検討がなされており、評価できる。

以上の状況から、教育の実施体制の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

#### 特に優れた点及び改善点等

受講者数は少数にとどまっているものの、附属学校においてサテライト教育を実施することにより、現職教員の大学院教育の推進に寄与している点は、優れている。

大学院全体としての学生受入方針の明確な整理や周知・公表については、改善の必要がある。

## 2. 教育内容面での取組

この項目では、対象組織における「教育内容面での取組」について、「教育課程の編成に関する取組状況」、「授業(研究指導を含む)の内容に関する取組状況」及び「施設・設備の整備に関する取組状況」の要素ごとに教育目的及び目標の実現に向けた貢献の程度を判断し、それらを総合的に判断した上で項目全体の貢献の程度を評価し、水準を導き出したものを示している。また、特に重要な点を「特に優れた点及び改善点等」として示している。

### 目的及び目標の実現への貢献度の状況

#### 【要素1】教育課程の編成に関する取組状況

教育現場での実践経験や各々が持つ課題意識を考慮し、現職教員の大学院生については、それぞれのニーズに合わせて授業の履修に自由度を持たせた教育課程の編成となっている点は、評価できる。

現職教員の大学院生や留学生に対しては、「汎論」の開講を行うなど、大学院で必要な基礎的知識・技能を得られるように配慮しており、優れている。

#### 【要素2】授業(研究指導を含む)の内容に関する取組状況

教員一名あたりの大学院生が少ないことを活かして、入学直後から研究や学位論文の個別指導を開始し、研究の進展を見定めた上で修士論文題目を決定させるなど、きめ細かな指導が行われている点は、評価できる。

平成13年度については、約33%の大学院生がティーチング・アシスタント(TA)として採用されており、教育効果が上がっているが、TAの大学院教育としての位置付けについては、さらなる検討が必要である。

#### 【要素3】施設・設備の整備に関する取組状況

情報ネットワークや情報サービス機器の整備により、パソコンは所属講座にも多数設置され、利用することが可能となっており、評価できる。

マルチメディア社会における教育システムとして、スペース・コラボレーション・システム(SCS)の供用が平成11年度から始まっており、150人収容の視聴覚ホールにおいて利用実績も漸増している点は、評価できる。

大学院棟の整備が行われ、大学院生の研究、教育の基礎的な条件は満たされており、評価できる。

図書の電子情報化については、目録所在情報の電子化、二次情報データベースの導入、大手出版社3社の電子ジャーナルの導入を行っている。また、大学紀要の各分冊

について、1991年以降の目次一覧をウェブサイト上で公開し、目次データベースを作成するなど、独自資料の電子化を進めている。図書館ホームページの充実等の取組も整備され、優れている。

以上の状況から、教育内容面での取組の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 特に優れた点及び改善点等

現職教員の大学院生や留学生に対しては、「汎論」の開講を行うなど、大学院で必要な基礎的知識・技能を得られるように配慮している点は、優れている。

TAの大学院教育としての位置付けについては、さらなる検討が必要である。

図書の整備方針や電子情報化については、目録所在情報の電子化、二次情報データベースの導入、電子ジャーナルの導入、大学独自資料の電子化、図書館ホームページの充実などの整備に関する取組が行われ、優れている。

### 3. 教育方法及び成績評価面での取組

この項目では、対象組織における「教育方法及び成績評価面での取組」について、「授業形態、研究指導法等の教育方法に関する取組状況」、「成績評価法に関する取組状況」及び「施設・設備の活用に関する取組状況」の要素ごとに教育目的及び目標の実現に向けた貢献の程度を判断し、それらを総合的に判断した上で項目全体の貢献の程度を評価し、水準を導き出したものを示している。また、特に重要な点を「特に優れた点及び改善点等」として示している。

#### 目的及び目標の実現への貢献度の状況

##### 【要素1】授業形態、研究指導法等の教育方法に関する取組状況

実践力を持つ教員の養成という観点から現職教員の入学を重視した結果、大学院生に占める現職教員の割合が増加し、それにより実際の教育現場での問題点等について、相互に活発な議論を行うような学習環境が形成されており、評価できる。

社会人、特に現職教員の教育を重視し、不足する専門分野の基礎力増進のため「汎論」を開設し、現場における教科指導の経験を取り入れながら学術の基礎を復習させている点は、優れている。

##### 【要素2】成績評価法に関する取組状況

学位論文審査及び最終試験については、各専攻全体の規模で行う「論文中間発表会」において、学外研究者を交えた公開討論を実施するなど、手続きはよく整備されており、評価できる。教育目的の達成にふさわしい論文の指導、審査基準の設定を実現するため、今後もなお一層の努力が必要である。

##### 【要素3】施設・設備の活用に関する取組状況

現職教員、社会人の大学院教育を充実させるため、附属学校の施設を利用したサテライト授業、夜間開講を行っている。特にサテライト授業については、受講者数は少数であるが、現職教員の大学院教育の推進に寄与しており、優れている。また、夜間開講は全専攻において実施しており、評価できる。

スペース・コラボレーション・システム(SCS)の運用については、SCS運営委員会において、教育交流事業、共同研究授業、生涯学習授業等の事業計画の目的を確認するとともに、積極的な利用に向けて運用促進の努力を行っている。また、平成11年度の供用開始以来、利

用実績は漸増しており、評価できる。

以上の状況から、教育方法及び成績評価面での取組の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

#### 特に優れた点及び改善点等

社会人、特に現職教員の教育を重視し、不足する専門分野の基礎力増進のため「汎論」を開設し、現場における教科指導の経験を取り入れながら学術の基礎を復習させている点は、優れている。

教育目的の達成にふさわしい論文の指導、審査基準の設定を実現するため、今後もなお一層の努力が必要である。

附属学校の施設を利用したサテライト授業は、受講者数は少数であるが、現職教員の大学院教育の推進に寄与しており、優れている。



---

#### 4. 教育の達成状況

---

この項目では、対象組織における「教育の達成状況」について、「学生が身に付けた学力や育成された資質・能力の状況から判断した達成状況」及び「進学や就職などの修了後の進路の状況から判断した達成状況」の要素ごとに教育目的及び目標に照らした達成の程度を判断し、それらを総合的に判断した上で項目全体の達成の程度を評価し、水準を導き出したものを示している。また、特に重要な点を「特に優れた点及び改善点等」として示している。

##### 目的及び目標に照らした達成度の状況

###### 【要素1】学生が身に付けた学力や育成された資質・能力の状況から判断した達成状況

学位論文指導については、大学院生が属する専門領域に応じて専門分野の教員が指導にあたっているが、専門性が同じ教員が複数在籍する場合の副指導教官制や、各専攻全体の規模で行う「論文中間発表会」等の取組を行っており、その結果多数の大学院生が論文審査での高い評価を得て修了した点は、優れている。

###### 【要素2】進学や就職などの修了後の進路の状況から判断した達成状況

大学院生の修了後の進路は、教員就職が多くの割合を占めている。未就職者に対しては、個々の専攻が対応するにとどまっているが、実情の把握に努めている。彼らの目指す進路は、教員採用試験の再受験、他大学大学院博士課程の受験準備など、多岐に渡っている。平成13年度においては、就職状況が厳しい中、修了者のうち「一時的な仕事」、「未就職者」の占める割合は低いものとなっており、優れている。

大学院生の就職へのインセンティブを高めること、適切な進路指導や市場の開拓が重要であるという認識の一層の浸透が必要である。

以上の状況から、教育の達成状況の項目全体の水準は、教育目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

##### 特に優れた点及び改善点等

多数の大学院生が論文審査での高い評価を得て修了し

た点は、優れている。

大学院生の就職へのインセンティブを高めること、適切な進路指導や市場の開拓が重要であるという認識の一層の浸透が必要である。

## 5. 学習に対する支援

この項目では、対象組織における「学習に対する支援」について、「学習に対する支援体制の整備・活用に関する取組状況」及び「学習環境（施設・設備）の整備・活用に関する取組状況」の要素ごとに教育目的及び目標の実現に向けた貢献の程度を判断し、それらを総合的に判断した上で項目全体の貢献の程度を評価し、水準を導き出したものを示している。また、特に重要な点を「特に優れた点及び改善点等」として示している。

### 目的及び目標の実現への貢献度の状況

#### 【要素1】学習に対する支援体制の整備・活用に関する取組状況

履修指導については、各専攻、分野ごとにオリエンテーションが実施されるなど、指導・助言が適切に行える体制が整備されている点は、評価できる。

留学生に対する支援として、各専攻や教員の紹介等が掲載された冊子「外国人留学生ガイドブック」を作成しており、また、日本語の補講科目を開設するといった配慮がなされている。さらに、学生会館には留学生談話室が設置され、パソコン、テレビ、ビデオ、コピー機、空調設備を備え、留学生支援のための設備として十分に機能している点は、優れている。

附属学校でのサテライト授業を含め、夜間開講を行うことにより現職教員や社会人に対する学習の支援がなされている点は、優れている。

附属図書館では平日は21時30分まで夜間開館を行っており評価できるが、夜間開館中のサービス内容については一層の充実を望む声もあるため、さらなる充実に向けて、改善の余地がある。

ボランティア活動を希望する大学院生の登録と、ボランティアを募集する団体の情報収集を行い、双方を支援する「学生ボランティア支援システム」や、フレンドシップ事業の実施等により、大学院生の体験的活動に対する支援体制はよく整備され、有効に活用されている。また、大学所在地の自治体と連携協定を結んでおり、実践的な研究を行うためのフィールド、教育に関する様々な課題を発見する場を大学院生に提供していることは、特色ある取組である。

セクシャル・ハラスメントの防止、メンタルヘルス等に関する支援システムとして、セクシャル・ハラスメント防止委員会等の各種委員会や相談窓口が設けられ、体制が整えられている点は、優れている。

#### 【要素2】学習環境（施設・設備）の整備・活用に関する取組状況

大学院生専用の研究室のほか、自主的な学習の場として附属図書館に自由閲覧室、共同学習やグループ討議に活用できるグループ読書室、パソコン等を持ち込むことができる情報コーナーが設けられており、併せて、夜間開館や休日開館を行うなど適切な取組がなされている点は、評価できる。

ITに関わる環境の整備・活用として、情報機器の整備を行っており、パソコンは共通講義棟に115台設置されているのをはじめ多数設置され、利用されており、評価できる。情報ネットワークのセキュリティについては、万全なる体制を目指し、現在改善の努力がなされているところである。

以上の状況から、学習に対する支援の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

#### 特に優れた点及び改善点等

附属図書館では平日は21時30分まで夜間開館を行っており評価できるが、夜間開館中のサービス内容については一層の充実を望む声もあるため、さらなる充実に向けて、改善の余地がある。

学生ボランティア支援システムや、フレンドシップ事業の実施等により、体験的活動に対する支援体制はよく整備され、有効に活用されている。また、大学所在地の自治体と連携協定を結んでおり、実践的な研究を行うためのフィールド、教育に関する様々な課題を発見する場を大学院生に提供していることは、特色ある取組である。

## 6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

この項目では、対象組織における「教育の質の向上及び改善のためのシステム」について、「組織としての教育活動及び個々の教員の教育活動を評価する体制」及び「評価結果を教育の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況」の要素ごとに改善システムの機能の程度を判断し、それらを総合的に判断した上で項目全体の機能の程度を評価し、水準を導き出したものを示している。また、特に重要な点を「特に優れた点及び改善点等」として示している。

### 改善システムの機能の状況

#### 【要素1】組織としての教育活動及び個々の教員の教育活動を評価する体制

自己評価に向けての組織的な取組を、点検評価委員会を中心として行っている。その成果の一環として、平成14年3月に「平成13年度福岡教育大学自己点検・評価報告書 平成11年度の改革を中心として」を公表したことは、評価できる。

個々の教員の教育活動の質を評価する方策として、平成12年度に大学院自己評価委員会（現点検評価委員会）が「大学院生による授業評価」を取り入れており評価できるが、対象となった授業は一部にとどまっており、今後の継続的な取組が望まれる。

平成13年度福岡教育大学自己点検・評価報告書及び「福岡教育大学大学院自己評価委員会報告書」を全教員に配付し、一人一人の教員が教育活動の改善に活かせるようにしているが、授業改善を行うためどのように活用するかは各教員に任されており、FDを全学的に展開するための体制の検討が必要である。

#### 【要素2】評価結果を教育の質の向上及び改善の取組に結び付けるシステムの整備及び機能状況

従来までの取組に加え、附属教育実践総合センターを中心に大学院教育を視野に入れつつ、FD研究会や研修等が行われているが、全学的なFD推進体制との関わり、役割分担を検討する必要がある。さらに、FDに関わる諸委員会との連携のあり方も検討していく必要がある。

以上の状況から、教育の質の向上及び改善のためのシステムの項目全体の水準は、向上及び改善のためのシステムがかなり機能しているが、改善の必要がある。

### 特に優れた点及び改善点等

平成13年度福岡教育大学自己点検・評価報告書及び「福岡教育大学大学院自己評価委員会報告書」を全教員に配付し、一人一人の教員が教育活動の改善に活かせるようにしているが、授業改善を行うためどのように活用するかは各教員に任されており、FDを全学的に展開するための体制の検討が必要である。

## 評価結果の概要

### 1. 教育の実施体制

受講者数は少数にとどまっているものの、附属学校においてサテライト教育を実施することにより、現職教員の大学院教育の推進に寄与している点は、優れている。

大学院全体としての学生受入方針の明確な整理や周知・公表については、改善の必要がある。

以上の状況から、教育の実施体制の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 2. 教育内容面での取組

現職教員の大学院生や留学生に対しては「汎論」の開講を行うなど、大学院で必要な基礎的知識・技能を得られるように配慮している点は、優れている。

T Aの大学院教育としての位置付けについては、さらなる検討が必要である。

圖書の整備方針や電子情報化については、目録所在情報の電子化、二次情報データベースの導入、電子ジャーナルの導入、大学独自資料の電子化、図書館ホームページの充実などの整備に関する取組が行われ、優れている。

以上の状況から、教育内容面での取組の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 3. 教育方法及び成績評価面での取組

社会人、特に現職教員の教育を重視し、不足する専門分野の基礎力増進のため「汎論」を開講し、現場における教科指導の経験を取り入れながら学術の基礎を復習させている点は、優れている。

教育目的の達成にふさわしい論文の指導、審査基準の設定を実現するため、今後もなお一層の努力が必要である。

附属学校の施設を利用したサテライト授業は、受講者数は少数であるが、現職教員の大学院教育の推進に寄与しており、優れている。

以上の状況から、教育方法及び成績評価面での取組の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 4. 教育の達成状況

多数の大学院生が論文審査での高い評価を得て修了した点は、優れている。

大学院生の就職へのインセンティブを高めること、適切な進路指導や市場の開拓が重要であるという認識の一層の浸透が必要である。

以上の状況から、教育の達成状況の項目全体の水準は、教育目的及び目標がおおむね達成されているが、改善の余地もある。

### 5. 学習に対する支援

附属図書館では平日は21時30分まで夜間開館を行っており評価できるが、夜間開館中のサービス内容については一層の充実を望む声もあるため、さらなる充実に向けて、改善の余地がある。

学生ボランティア支援システムや、フレンドシップ事業の実施等により、体験的活動に対する支援体制はよく整備され、有効に活用されている。また、大学所在地の自治体と連携協定を結んでおり、実践的な研究を行うためのフィールド、教育に関する様々な課題を発見する場を大学院生に提供していることは、特色ある取組である。

以上の状況から、学習に対する支援の項目全体の水準は、教育目的及び目標の達成におおむね貢献しているが、改善の余地もある。

### 6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

平成13年度福岡教育大学自己点検・評価報告書及び「福岡教育大学大学院自己評価委員会報告書」を全教員に配付し、一人一人の教員が教育活動の改善に活かせるようにしているが、授業改善を行うためどのように活用するかは各教員に任されており、FDを全学的に展開するための体制の検討が必要である。

以上の状況から、教育の質の向上及び改善のためのシステムの項目全体の水準は、向上及び改善のためのシステムがかなり機能しているが、改善の必要がある。

## 特記事項についての所見

「対象組織の記述」は、対象組織から提出された自己評価書から転載

対象組織の記述

機構の所見

(記述なし)